

PRESS RELEASE

株式会社 矢野経済研究所

〒164-8620 東京都中野区本町 2-46-2

中野坂上セントラルビル

代表取締役社長 水越 孝

統合医療市場の実態と展望 2006年版

◆調査要綱

矢野経済研究所では、医療費抑制策の進展、生活習慣病患者の増加などを背景に、必要性が高まると見られる統合医療市場に着目した。

2002年11月に発刊した『代替医療市場の実態と将来展望』を踏まえ、国内のドクターアンケートを再度実施し、米国での代替医療研究動向を含め、統合医療市場の実態と展望を明らかにした。

- 調査対象先 : 補完・代替医療を含む統合医療に参入しているサプリメントなどの各メーカー、サービス産業及び医療機関
- 調査期間 : 2005年9月～2005年11月
- 調査方法 : 直接面接取材、電話取材、医師に対する直接アンケート

◆調査結果サマリー

- ★ 2002年から2004年で比較すると成長率17%の2兆3,586億円の市場規模。特にリフレクソロジーが約11倍と急激な拡大、心理療法・カウンセリングが70%、運動療法、健康食品とも20%を超える成長率を示している。2013年には5兆円を超える巨大産業となる。
- ★ 統合医療に関するドクターアンケートを実施。実践している医療機関は、25%と高い。2003年の前回調査では11.6%であったため、統合医療を実践している医療機関は急激に増えている。

＜統合医療に関するドクターアンケート概要＞

- ①調査期間 : 2005年10月～2005年11月
- ②調査対象者 : 全国の病院、医院の医師
- ③アンケート送付数 : 991
- ④回収数 : 400 (回収率40.4%)

＜アンケート結果のポイント＞

- ・実践している病状は、がん、免疫力低下、アトピー、肥満の順に多く、医療内容は、漢方、サプリメント、食事療法の順となる。
- ・医師が薦める健康食品、機能性食品、サプリメントは、ビタミン剤を除き、CoQ10、アガリクス、イチョウ葉、メシマコブの順となっている。
- ・実践する目的は、疾病の改善ではなくQOLの向上に主眼を置いている。
- ・統合医療の課題として、エビデンスの確立・不足があげられる。

◆資料体裁

発刊日: 2005年12月15日 体裁: A4判222頁 定価: 110,250円(税込み)

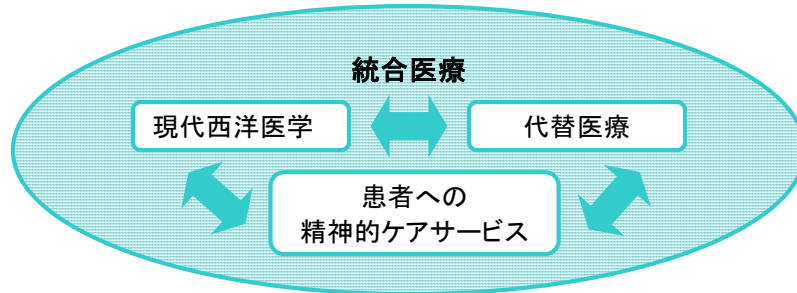
この件に関するお問合せは TEL 03-5371-6912

(株)矢野経済研究所 管理本部 広報室 : 中村 理美
(株)矢野経済研究所 ライフサイエンス産業調査本部 : 加藤 正嗣

調査内容の解説

【 日本における統合医療市場概況 】

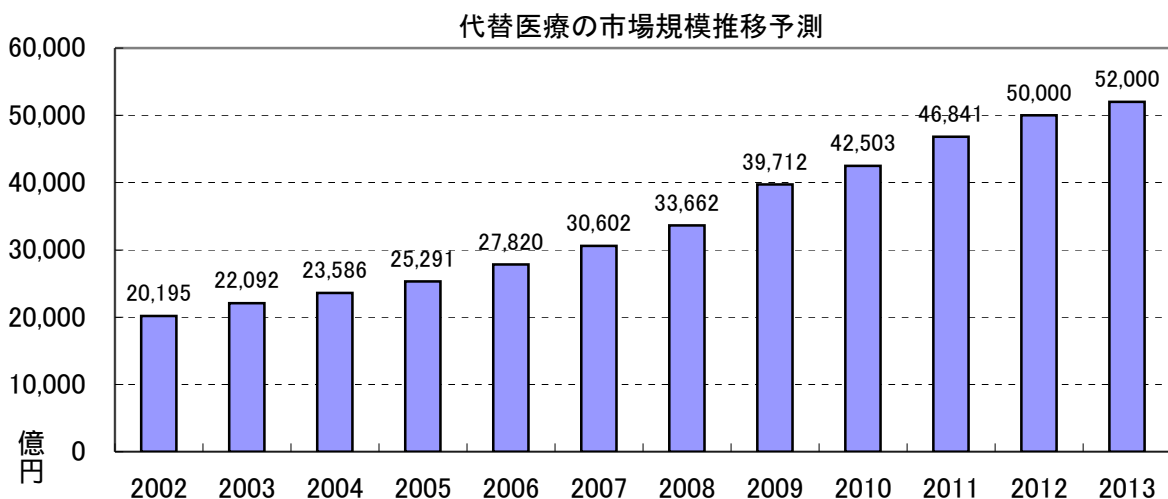
統合医療とは、患者中心の医療を実現するために、現代西洋医学と補完・代替医療を積極的に取り入れて、統合的な治療とケアをしていくことである。(図表-1)によって、統合医療市場を考察するにあたり、補完・代替医療の市場を深く考察することが不可欠なこととある。



図表-1 統合医療の概念図

補完・代替医療市場は、食事栄養に関する代替医療(以下 CAM)、手技・トリートメントに関するCAM、その他療法に関するCAMの3種に市場セグメントできる。2000年から2004年にかけての市場推移は、健康食品で占められる食事栄養に関するCAMでは、5,400億円から6,492億円と20.2%の成長、針灸、カイロプラティック、マッサージ、リフレクソロジーなどの手技・トリートメントに関するCAMは、7,128億円から8,690億円・21.9%、心理療法、運動療法、温泉療法などのその他療法に関するCAMは、7,257億円から8,404億円・15.8%の成長率を示している。中でも、リフレクソロジーは、店舗数の拡大や利用者の急増から急激な市場拡大が起きている。

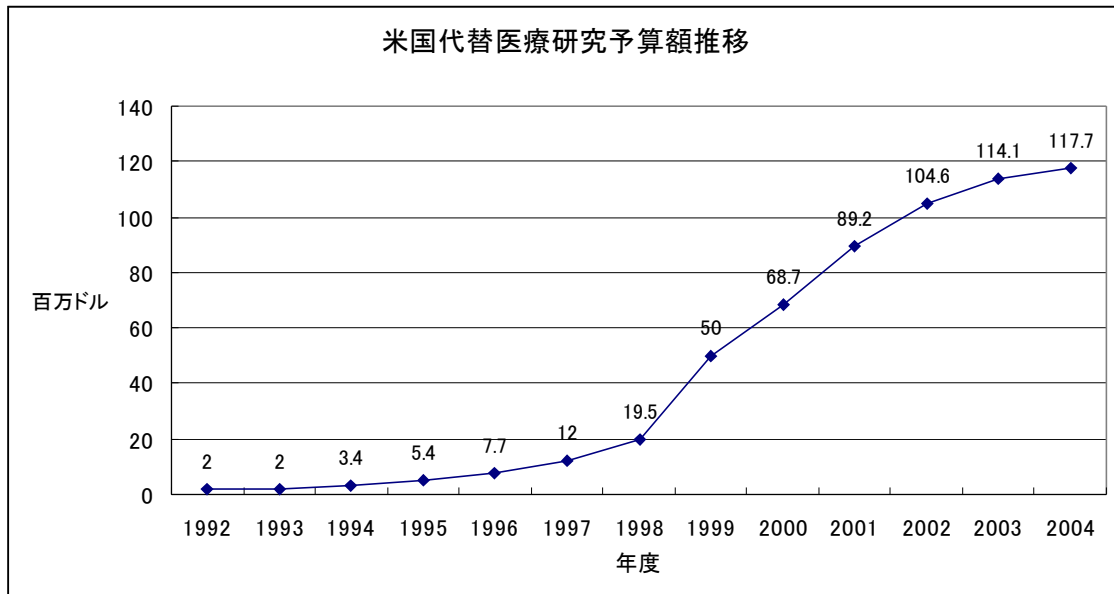
今後10年間の推測では、市場は拡大し続け2013年には5兆円を超える規模になると予測される。(図表-2)



図表-2 代替医療の市場規模推移(2002~2013年) ~矢野経済研究所推測~

【 アメリカにおける統合医療市場概況 】

1999年、米国立衛生研究所(NIH)内に国立補完・代替医療研究センター(NCCAM)を設立してから代替医療研究予算額が伸び始め、1998年1900万5000ドル、1999年5000万ドルに対して2004年1億1770万ドルと、1999年からの5年間で約2.4倍に膨れている(図表-3)。

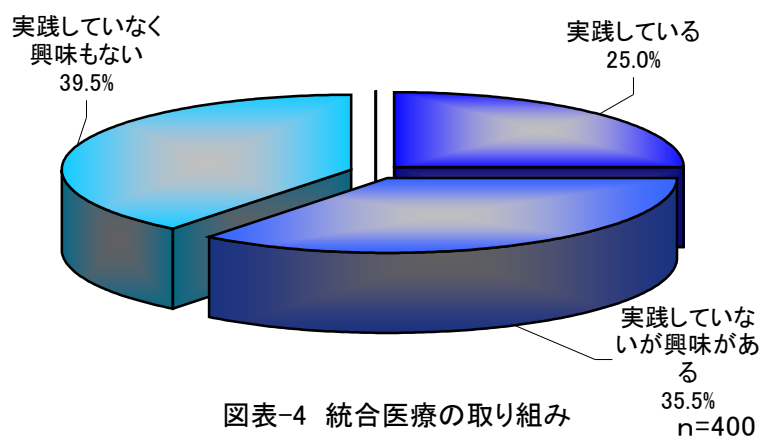


図表-3 米国代替医療研究予算額推移(1992~2004年)~NCCAM HPより~

【 統合医療に関するドクターアンケート 】

① 統合医療の取り組みについて

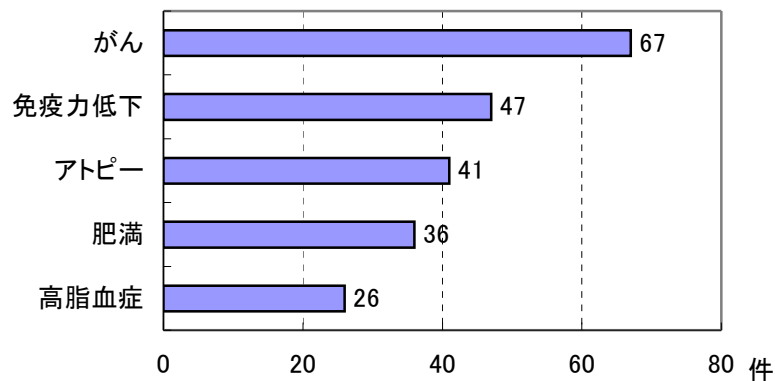
統合医療の実践有無と興味の有無に関する質問では、実践している100件・25%と非常に高い。また、実践していないが興味がある142件・35.5%と注目度も高い。実践していません興味もないは、158件・39.5%であった。(図表-4)



図表-4 統合医療の取り組み

② どのような病状に対して統合医療を実践しているのか(複数回答)

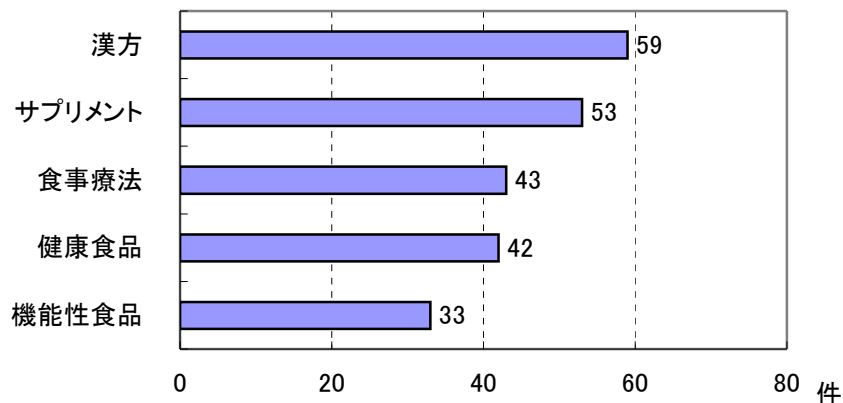
統合医療を実践する病状に対する質問では、がんに対するものが圧倒的に多く67件、続いて免疫力低下が47件となり、統合医療が免疫賦活目的で行われていることが伺える。続いて、アトピー41件、肥満36件、高脂血症26件となっている。(図表-5)



図表-5 実践する統合医療の病状(上位抜粋)

③ 実践する統合医療は何か(複数回答)

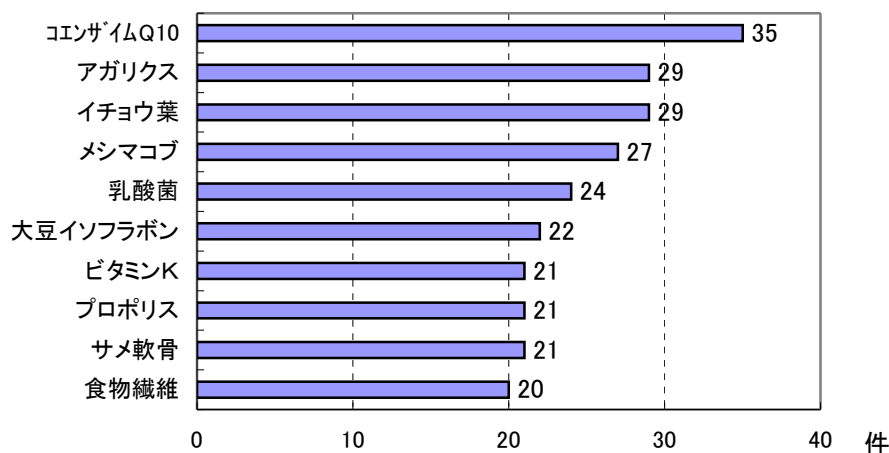
実践している統合医療の内容は、漢方59件が一番多く、続いてサプリメント53件、食事療法43件、健康食品42件、機能性食品33件の順になっている。(図表-6)



図表-6 実践する統合医療内容(上位抜粋)

④ 医師が薦める健康食品、機能性食品、サプリメントは何か(複数回答)

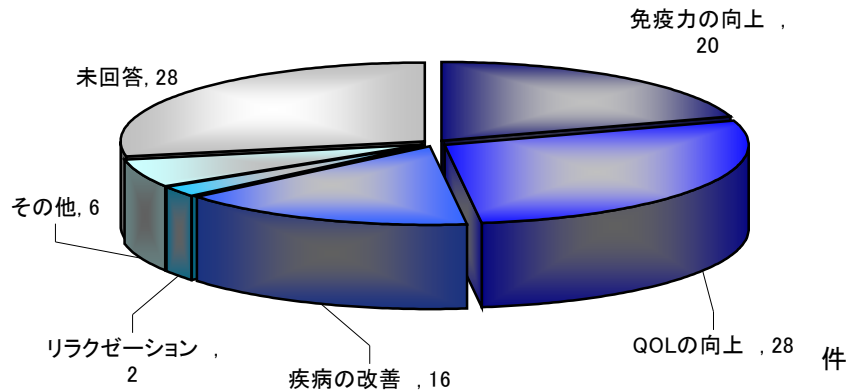
医師が薦める健康食品、機能性食品、サプリメントは、ビタミン剤を除き、コエンザイム Q10 35件、アガリクス 29件、イチョウ葉 29件、メシマコブ 27件の順になっている。コエンザイム Q10は、抗老化、抗酸化、アガリクスとメシマコブは、免疫力について改善される。(図表-7)



図表-7 医師が薦める健康食品、機能性食品、サプリメント(上位抜粋)

⑤ 統合医療を行う目的は何か

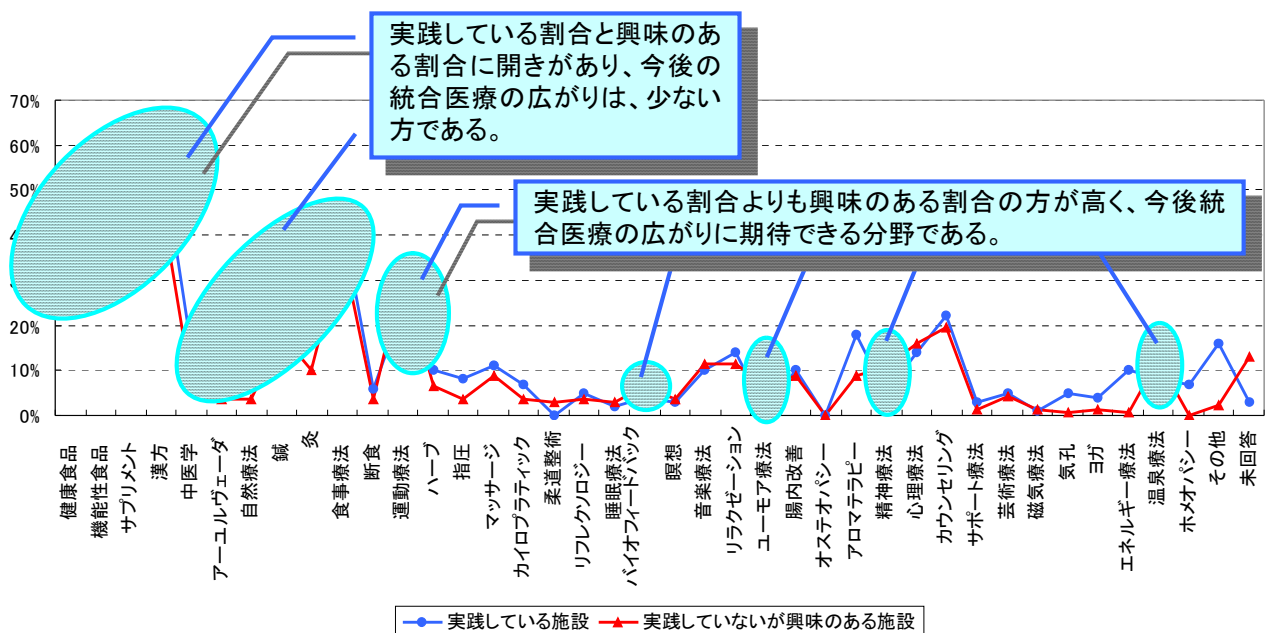
統合医療を実践する最大の目的は何かという質問では、患者のQOLの向上が28件と一番高い。続いて、免疫力の向上20件、疾病の改善16件の順になっている。統合医療の特徴として、疾病の改善よりもQOLの向上に主眼を置いていることが理解される。(図表-8)



図表-8 統合医療を行う目的

⑥ 今後注目される統合医療は何か

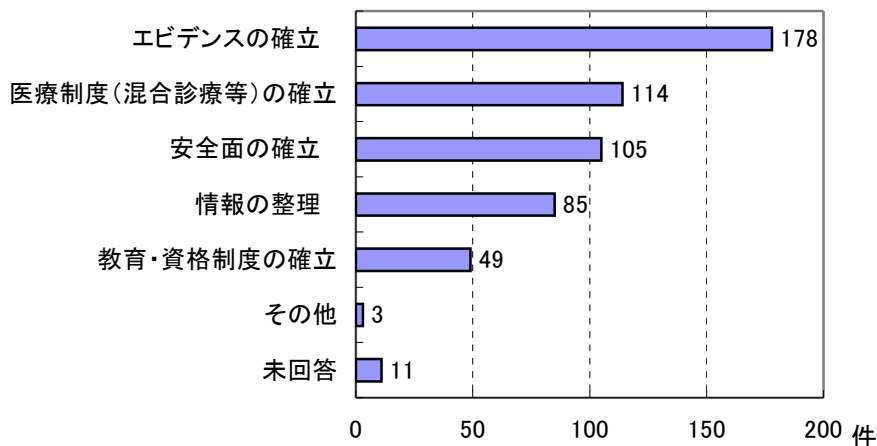
実践している統合医療内容と実践していないが興味のある統合医療内容を比較して、今後注目される統合医療を推測する。運動療法、バイオフィードバック、ユーモア療法、精神療法、温泉療法において、実践しているものより実践していないが興味ありの方が多いため、今後診療拡大が推測される。(図表-9)



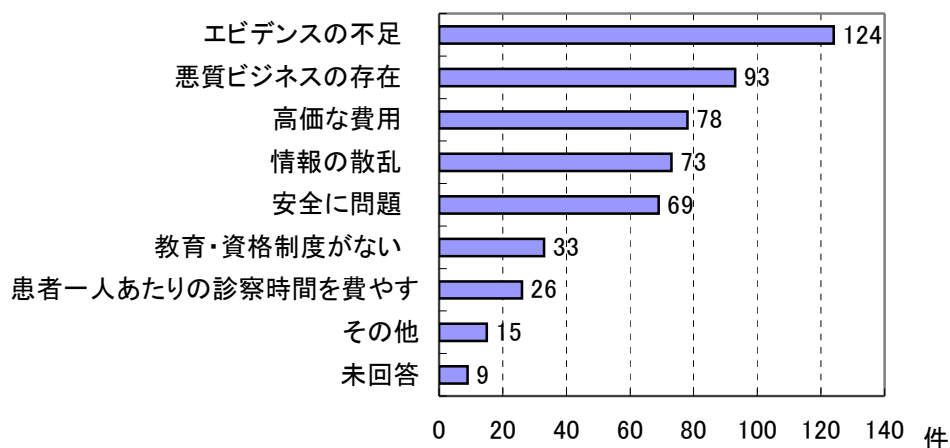
図表-9 注目される統合医療の検証

⑦ 統合医療の課題は何か(複数回答)

統合医療を実践している、実践していないが興味がある医師の認識する統合医療の課題については、エビデンスの確立 178 件、医療制度(混合診療等)の確立 114 件となっている。(図表-10)興味がない理由としては、エビデンスの不足 124 件、悪質ビジネスの存在 93 件、高価な費用 78 件の順となっている。(図表-11)このように、統合医療においてエビデンスが最も重要課題と言える。



図表-9 統合医療を実践している、興味のある医師の統合医療の課題



図表-10 統合医療に興味のない理由